

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇			帝				科	皇	一
二			爵		王		帝	爵		二
三	歩		馬	歩	歩	歩	馬	歩	歩	三
四			歩							四
五		進								五
六			歩					飛		六
七	歩	歩	角	歩	歩	歩	歩		歩	七
八			金	銀	玉					八
九	香	桂				金	銀	桂	香	九

一 二 三 四 五 六 七 八 九

▲ 佐藤歩二

(△7三桂まで)

△8五飛と高飛車に構える中座流が世に出て、間もなく20年。初めて△8五飛と指された相手は「引き場所を間違えたのではないか」と思ったそう。

ところが、奇異に映った△8五飛型は、従来の△8四飛型を駆逐する勢いで流行した。丸山忠久九段などは、横歩取り中座流と角換わり腰掛け銀の二刀流で名人を2期務めたようなものだ。

近年は、研究対象の軸足が△8四飛型に戻っている。稲葉自身、今期のA級リーグでは専ら△8四飛型を用いているが、局後の談話によると「後手なら△8五飛」と決めていたそう。

佐藤は▲2六飛と定位置に戻し、△5二玉に▲7七角と上がった。△同角成なら▲同桂が飛車取りに当たる。稲葉は△7二銀から着々と攻撃態勢を整える。

まだ目立った長考はないが、徐々に駒組みが熟し、腹の探り合いが始まっている。ともに畳に視線を落とし、盤上で脳天を突き合わせる姿がしばしば見られた。

# 第6譜

## 立場を替えて

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香			香				桂	香	一
二			銀		王		香	銀		二
三	歩		桂	歩	歩	歩	角		歩	三
四			歩							四
五		銀								五
六			歩					飛		六
七	歩	歩	角	歩	歩	歩	歩		歩	七
八			金	銀	玉					八
九	香	桂				金	銀	桂	香	九

(図は△7三桂までの局面)

一歩  
二歩  
三歩  
四歩  
五歩  
六歩  
七歩  
八歩  
九歩

▲佐藤歩二

▲ 1六歩9

△ 2三銀29

▲ 1五歩29

指手31

各9時間  
持ち

消費

▲ 1時間19分

△ 1時間11分

稲葉が△7三桂と跳ねた図の局面。後手は攻撃態勢がほぼ整った。先手は右辺の模様をどう取るか。前例は6局ある。

1号局は、第70期A級順位戦の▲丸山―△三浦戦。図から▲3八金△9四歩▲4八銀と金開きの布陣を敷いている。

稲葉も先手を持って2局経験があり、その1局は、